

10~12月期の業況は改善
【特別調査】 - 「2021年(令和3年)の経営見通し」

【調査要領】
調査時点：2020年12月上旬
調査対象：西兵庫信用金庫お取引先102社
調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
調査企業数：102社
調査票回収：102社
調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析
景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	18
不動産業	5
総計	102

（例）

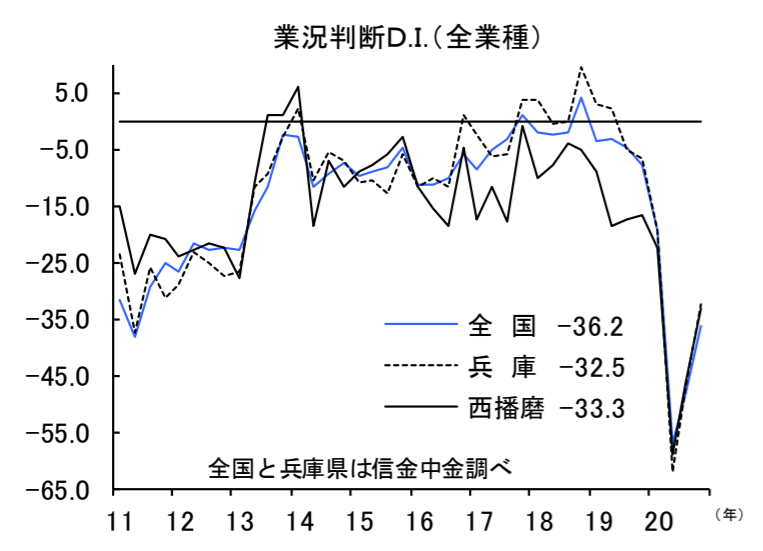
	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

全業種総合

～景況感は改善～
20年10~12月期(今期)の業況判断D.I.は△33.3と、前期比12.8ポイント改善した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業が1.0ポイント上昇し、「悪い」と回答した企業の割合が11.8ポイント低下したことによる。前年同期比の売上額判断D.I.は△37.3と前期比13.7ポイント上昇し、同収益判断D.I.は△38.2と前期比8.9ポイント上昇した。

業種別の業況判断D.I.は、製造業・小売業・建設業・不動産業が上昇した一方、卸売業・サービス業は低下した。
全国の業況判断D.I.は△36.2と前期比12.1ポイント改善、兵庫県では△32.5と同14.4ポイント改善した。

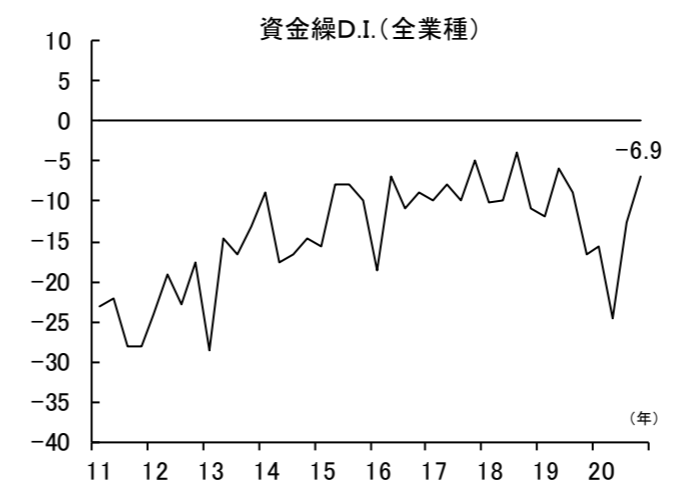


【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

業種名	2020年7~9月	2020年10~12月	2021年1~3月(見通し)
総合	☔	☔	☔
製造業	☔	☔	☔
卸売業	☔	☔	☔
小売業	☔	☔	☔
サービス業	☔	☔	☔
建設業	☔	☔	☔
不動産業	☔	☔	☔

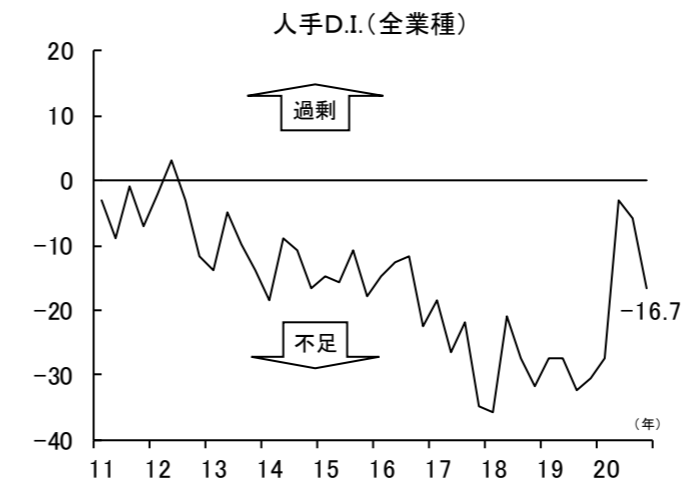
快晴 晴れ 晴れ時々曇り 曇り 雨 大雨
☀️ ☁️ ☔ ☔ ☔ ☔ ☔

← 好調 → 低調



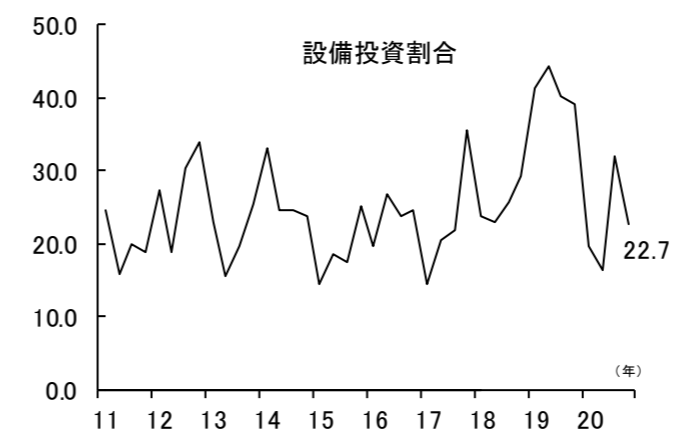
～販売価格判断D.I.は上昇・仕入価格判断D.I.は上昇～
販売価格判断D.I.は△0.0と前期比4.9ポイント上昇した。仕入価格判断D.I.は5.9と前期比4.9ポイント上昇した。

～資金繰り判断D.I.は改善～
資金繰り判断D.I.は△6.9と、前期比5.8ポイント改善した。業種別では、卸売業が前期比9.1ポイント、小売業が同11.7ポイント、サービス業が同21.1ポイント、建設業が同11.1ポイント改善した。一方、製造業が前期比9.3ポイント低下した。不動産業は横ばいとなった。



～人手過不足判断D.I.は、人手「不足」感が強まった～
雇用面では、人手過不足判断D.I.が△16.7(マイナスは人手「不足」超)と前期比10.8ポイント低下した。残業時間判断D.I.は△6.9と、前期比16.7ポイント上昇した。残業時間が「減少」したとする企業の割合が低下したことによる。

～設備投資実施企業割合は上昇～
設備投資実施企業割合(不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合)は22.7%と、前期比9.3ポイント低下した。



～来期の景況感は今期実績比僅かに改善する見通し～
来期の予想業況判断D.I.は△28.4と今期実績比4.9ポイント改善する見通しとなっている。

業種別の予想業況判断D.I.は、製造業が今期実績比3.1ポイント、卸売業が同36.3ポイント、サービス業が5.3ポイント改善する見通しである。一方、不動産業が今期実績比20ポイント低下する見通しである。小売業、建設業は横ばいとなる見通しである。

＜経営上の問題点＞
経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が52%、「利幅の縮小」が31%、「人手不足」が22%と多く、その他では「同業者間の競争の激化」が14%、「問題なし」が11%となっている。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	52%
2位	利幅の縮小	31%
3位	人手不足	22%
4位	同業者間の競争の激化	14%
5位	問題なし	11%

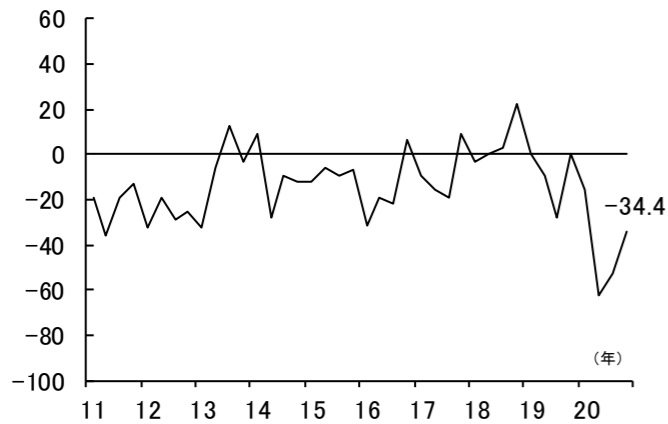
＜当面の重点経営施策＞
当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が46%、「販路を広げる」が32%、「人材を確保する」が24%と多く、その他では「情報力を強化する」が14%、「教育訓練を強化する」が12%、「提携先を見つける」が11%となっている。

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	46%
2位	販路を広げる	32%
3位	人材を確保する	24%
4位	情報力を強化する	14%
5位	教育訓練を強化する	12%
6位	提携先を見つける	11%

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は△34.4 と、前期比 18.7 ポイント改善した。

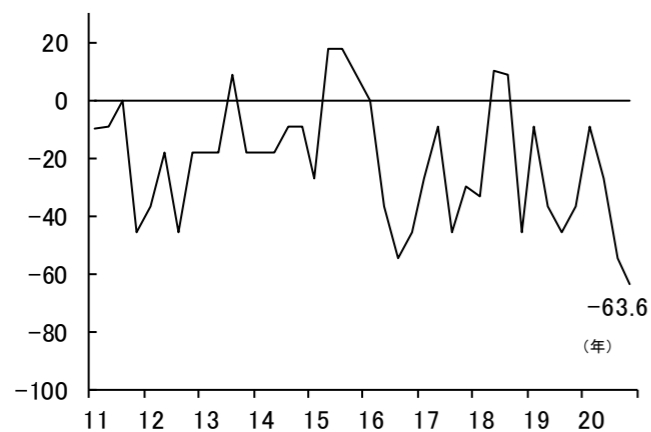
前年同期比売上額判断 D.I.は△46.9 と前期比 6.2 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は△46.9 と前期比 3.1 ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は 21.9%と、前期比横ばいとなった。資金繰り判断 D.I.は△15.6 と、前期比 9.3 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、△6.3 (前期 6.3) と人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は△31.3 と今期実績比 3.1 ポイント改善を見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は△63.6 と、前期比 9.1 ポイント低下した。

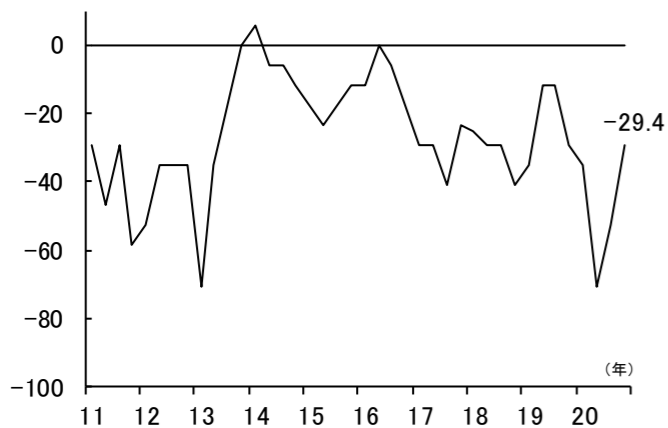
前年同期比売上額判断 D.I.は△54.5 と前期比横ばいとなった。同収益判断 D.I.も△54.5 と前期比横ばいとなった。

資金繰り判断 D.I.は 18.2 と、前期比 9.1 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は 18.2 (前期 0.0) と人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は△27.3 と、今期実績比 36.3 ポイント改善を見込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は△29.4 と前期比 23.5 ポイント改善した。

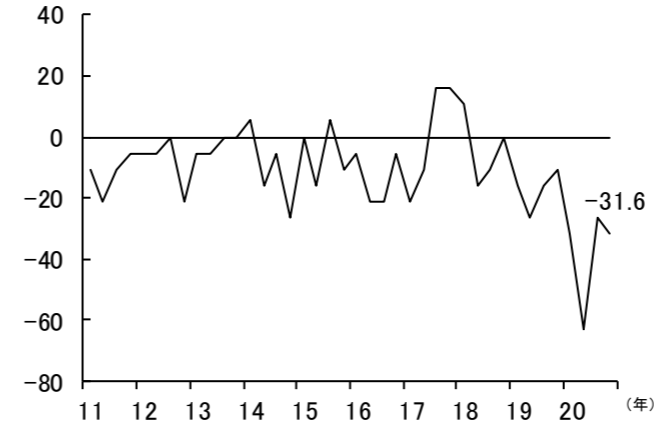
前年同期比売上額判断 D.I.は△29.4 と前期比 29.4 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は△41.2 と前期比 5.9 ポイント上昇した。

資金繰り判断 D.I.は△11.8 と、前期比 11.7 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は△11.8 (前期△5.9) と人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は△29.4 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は△31.6 と、前期比 5.3 ポイント低下した。

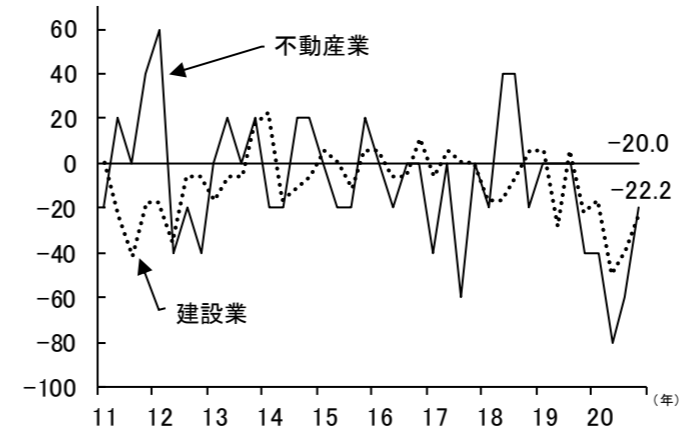
前年同期比売上額判断 D.I.は△31.6 と前期比 5.2 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は△31.6 と前期比 5.2 ポイント上昇した。

資金繰り判断 D.I.は△0.0 と前期比 21.1 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は△21.1 (前期△21.1) と人手不足感は横ばいとなった。残業時間判断 D.I.は△10.5 と、前期比 15.8 ポイント上昇した。

来期の予想業況判断 D.I.は△26.3 と、今期実績比 5.3 ポイント改善を見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は改善～

今期の建設業の業況判断 D.I.は△22.2 と前期比 16.7 ポイント改善した。前年同期比売上額判断 D.I.は△11.1 と前期比 33.3 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は△11.1 と前期比 27.8 ポイント上昇した。受注残判断 D.I.は 0.0 と、前期比 11.1 ポイント上昇した。

資金繰り判断 D.I.は△5.6 と、前期比 11.1 ポイント上昇した。人手過不足判断 D.I.は、△27.8 (前期△5.6) と、前期比 22.2 ポイント低下し、人手不足感は強まった。来期の予想業況判断 D.I.は△22.2 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

～不動産業の景況感は改善～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は△20.0 と前期比 40.0 ポイント改善した。前年同期比売上額判断 D.I.は△80.0 と前期比横ばいとなった。同収益判断 D.I.は△60.0 と前期比 20.0 ポイント改善した。資金繰り判断 D.I.は△20.0 と前期比横ばいとなった。在庫過不足判断 D.I.は△20.0 と、前期比 20.0 ポイント低下した。来期の予想業況判断 D.I.は△40.0 と、今期実績比 20.0 ポイント低下を見込んでいる。

調査員のコメント

製造業：従業員の感染による操業停止が一番の不安である。

卸売業：病院等への売上は順調である。ただ、コロナの影響による病院等の経営状況の悪化が懸念される。今後よく把握して、取引に対応したい。

小売業：キャンプ客が増加しており、薪などは売れている。

サービス業：従業員で1名濃厚接触者に該当したので、2週間の隔離措置を行った。複数名がそういう事態になると仕事が回らなくなるので気をつけたい。

建設業：生コン価格が上昇しており、利幅が小さくなっている。コロナ関連融資の利用により資金繰りは落ち着いているが、来年以降については不安がある。